

【ポスター発表】

外来患者のニーズに応じた医療ソーシャルワーカーのあり方について

—透析患者を通して—

○ 金沢西病院 鵜野 由記子 (009218)

山谷 聡美 (金沢西病院・009184), 平田 明日香 (金沢西病院・009595)

園谷 準 (みずほ病院・006992), 岡村 綾子 (金城大学・003446)

キーワード: MSW, 透析患者, 生活課題

1. 研究目的

医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）という言葉は、最近耳にする機会が増えてきた。しかし本人を含め身内等が病気になったときに、介護保険や障害者手帳の申請時、入院時の相談やその手続き等の際にMSWの存在や仕事の内容を初めて知る人が多い。

入院患者の場合は、MSWを知らなかったとしても、医師や看護師からの紹介もあり、いや応なしに知る機会があるが、退院後のことを考える必要があるためか、退院に関わる仕事をしている者と理解されがちである。他方、外来患者は、医療費が払えないなどの場合にMSWの存在を知ることがあるが、病院によっては、支払などに関しては医事課の事務職員が対応する場合があるために、MSWの存在はほとんど知られていない。その結果、外来患者の中には、病名を知らされ、治療が必要になったときに、本人の抱えている生活上の問題が気になり治療を遅らせたり、断念したりすることになる。その場合、MSWと相談すれば一緒にその問題に対する解決方法を探ることができる。しかし、MSWの存在を知らないため相談できずに、問題の解決方法を見出せないことになりがちである。このような場合でも、医師や看護師に相談していれば、MSWにつながるが、自分の生活上の問題は治療と関係がないので医師や看護師に言いたせないのかもしれない。

上記のことから、外来患者は病名を知らされたときに、患者本人の生活課題について相談することが出来たらと思っているのではないかと考えた。そのため、病名を知らされ、病気を受け入れ、治療を開始する時点で、MSWの存在をどの程度知っていたか、抱えていた不安などについての相談の必要性、あるいはやむなくMSW以外の人に相談したことなどを調べ、外来患者の立場に立ってMSWが生活上の問題を解決する方法について検討する必要がある。そこで、本研究では外来患者のMSWへの要求や理解の内容からMSWのあり方について検討することとする。

2. 研究の視点および方法

- 1) 調査協力者 A病院に通院している透析患者45人を調査協力者とした。
- 2) 調査内容 病気を知らされた時の気持ち、病気に関する相談相手とその相談内容、病気が生活に及ぼす影響について、MSWの認知の程度について、MSWに解決してもらいたい問題についてなどを尋ねた。
- 3) 調査方法 調査について透析患者の方々に直接説明を行い、調査に同意を得られた場

合に同意書を交わし、日を改めて半構造化面接にて聞き取り調査を行った。聞き取り調査に要する時間は一人当たり1時間程度とし、聞き取りの内容は、協力者の了承を得てICレコーダーに録音した。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理指針を厳守し実施した。調査協力者には、研究の趣旨と内容、得られたデータは研究目的外には使用しないことについてあらかじめ説明した上で調査への協力を要請し、研究協力同意書への署名をもって研究参加受諾とした。調査結果を公表する際には個人が特定できないように配慮し、匿名性を守ることを約束した。本研究はA病院臨床研究倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究結果

原疾患を告げられた時の気持ちとして、「透析になると知っておきたかった」「病気のことをもっと聞きたかった」などが挙げられた。透析開始を告げられた時の気持ちとして、透析についての情報がなく、今後の生活への不安から、「どんな治療をするのか不安」「死んだほうがまし」などが挙げられた。また、透析通院するにあたり時間の制約が生じ、「仕事の調整ができない」「客に迷惑がかかる」などが挙げられた。透析を始めてから現在までの気持ちとして、通院の際に自分や家族が「運転できなくなったらどうしよう」「透析しながら入院できる病院や入れる施設はあるのか」などが挙げられた。また、時間について「時間に自由がきかない」「冠婚葬祭が困る」などが挙げられた。仕事の面では、「働ける時間に制限が出る」「体がしんどく仕事が続けられないときがある」などが挙げられた。

5. 考察

上記の結果から病気における課題、Lifeにおける課題、仕事に関する課題などの生活課題が挙げられ、MSWが何をなすべきかについて検討した。まず、病気における課題は、MSWは患者が診断、治療内容に不安が生じないように、患者・家族の状況を踏まえて、理解できるよう援助をする必要がある。次にLifeにおける課題は、透析を行うことで日常生活に変化が生じた際に、患者の不安を聴き整理し、解決に向けて共に考えることができる職種であると伝える必要がある。仕事に関する課題は、透析開始によって、仕事の仕方を変えなければならなくなった時には、患者の不安を聴き、職場との話し合いなどの調整・支援ができることを伝えることが重要である。以上より「医療ソーシャルワーカーの業務指針」と照らし合わせてMSWの役割を考えてみると、まず、病気における課題は、「受診・受療援助」に該当し、患者が医者にしたことを聞けず、解決しないままにならないように医者につなぐ役割がMSWにはある。次にLifeにおける課題は、「療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助」に該当し、今後も変化が生じることを予測し、その時に、どこへ相談したら良いのか、また、どのような社会資源があるのかを必要に応じて事前に伝えていくことがMSWの役割である。仕事に関する課題は「社会復帰援助」に該当し、関係機関や職場と連絡をとり話し合いの場を調整し設けることがMSWの役割である。